

---

# お別れの話

紀本 真利亞

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

お別れの話

### 【著者】

Z2988E

### 【作者名】

紀本 真利亜

### 【あらすじ】

長年、付き合ってきたパートナーとのお別れのお話です。暇な方、是非読んで下さー。（7／12、少し改稿）

(前書き)

短い文なのでどうか最後まで読んで下さり。宜しくお願ひします。

長年、付き合っていたキミともお別れの時が来た。

キミとの出会いはとても衝撃的で、今でも忘れる事はない。その細い華奢な体に白い肌、そして、淡い香りに私は心を意図も簡単に盗まれてしまった。キミという存在は私にとって麻薬と同じでキミ無しでは最早いてもいられなくなってしまったのだ。

キミは、私の『生きがい』となっていたのである。

それから約10年間、お互に同じ道を歩んだ。辛い時も楽しかった時も、常に私の支えになってくれたキミ。これからもずっと一緒にいられると思っていたのに、時の流れは私の心を変えてしまった。

何故だろう。何故、キミを諦めなければならないのか。悪いのは私の方でキミは悪くはない。私は申し訳のない気持ちで一杯になっていた。でもキミにどう伝えれば良いのかわからない。キミも既に私の気持ちを感じている筈なのに、優しいキミはただ、ただ私を見つめて黙っている。

私の考えが変わってくれるのを待っているのだろう。キミの考えている事は全てわかつてしまうのだ。長年と一緒にいたのだから。

キミは決して悪くは無い。悪いのは自分勝手な私の方なのだ。

「すまない。」

今の私にはこの言葉しか言えない。

それでもキミはただ黙つて私を見つめる。キミの視線だけが私の胸に突き刺さる。その視線が痛いだけにキミを見る事すら出来なかつた。

だが私の意志は既に硬く固まつていた。これからは辛い時も悲しい時も、己のみの力で乗り切つていく事に。

でも、でも最後だけ。最後だけキミに触れたい。もう一度だけ。キミはそれを許してくれるのだろうか。私は本当に弱い愚かな人間だ。

私はキミに視線を送つた。相変わらず華奢で細く白い出合つた時のままの姿で私を見つめていた。キミは私の思いを悟つてか、

「最後に私に触れていいよ。」

言葉こそ発しはしなかつたが私の最後のワガママを聞いてくれたキミ。長年連れ添つてきた一人には言葉なんて物が無くともお互ひを理解できていたのだ。

私は右手でキミの白い華奢な体に触れる。今までと同じように。優しく。そして、私の唇にキミの唇が触れた。

正直、ホッとしてしまう私がいた。

『キミと離れたくは無い』

これが私の本音なのだ。でもそれは仕方の無い事もわかつていた。

それと同時に、私の欲情に拍車が懸かってしまう。もう、抑えられないこの気持ち。この高鳴った欲情を押さえ込む事が出来なかつた。自然と私の左手は、いつものように慣れた手付きで動き出し、右手の指先がキミに触れる。

その瞬間、キミにも火がつく……。

キミの華奢な体も段々と火照つてくるのがわかる。キミの白い体から艶やかな香りがしてくるのもわかつた。キミの口から漏れる微かな吐息も、今の私には愛しく切なさえも感じた。

「これが最後だから。」

そう呟きながら私はキミと一つになつた。その行為は、いつもより優しく、いつもより大切にキミを愛していた。

最後のキミの姿は、いつもより小さく蹲り、寂しげに私を見つめていた……。

「ふう。」

私は深く息を吸い、鼻から勢い良く煙を出した。

「これが最後の一本！」

と、言いながらタバコを吹かし、ライターと残りのタバコが入つて  
いるタバコの箱をゴミ箱に捨てた。

「医者にタバコを止めろって言われたら仕方ないよね」

そう呟きながら約10年間吸い続けたタバコに別れを告げたのだ。

(後書き)

禁煙をする人の話でした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2988e/>

---

お別れの話

2010年10月11日03時45分発行